

# 広川町の 学校教育

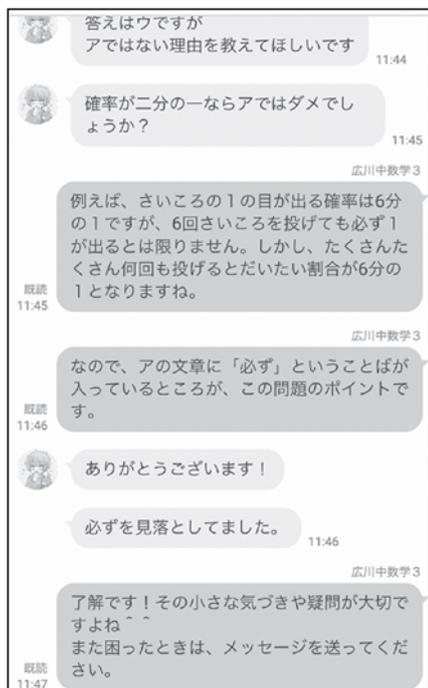
## 新型コロナウイルス感染症への対応 休校中の取り組み・今後の対策

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、町内の学校は3月から休校となりました。休校中の各学校の取り組みや今後の対策をお知らせします。

### 休校中の取り組み

各小学校では、家庭訪問や電話、地区ごとの小グループによる分散登校などを実施。休校中の児童の健康状態や学習状況を確認したり、家庭でできる学習プリントを配布したりしました。

中学校では、4月末にLINE公式アカウントを導入。教師が生徒の実態に応じた課題（学習プリントなど）を配信し、生徒の質問に答えたり、アドバイスしたりしました（左図）。



### 今後の対策

厚生労働省が新型コロナウイルスを想定して示した「新しい生活様式」に沿って、次のように学校でも取り組んでいます。

#### 各教科などの対策

新型コロナウイルス感染症が収束するまで、感染リスクが高い次の学習活動を中止します。

- ・狭い空間での歌唱（音楽科）
- ・調理実習（家庭科）
- ・水泳や近距離で接触する運動（体育科）
- ・グループ学習
- ・運動会や体育大会、合唱コンクール、学習発表会など

#### 生活習慣の指導

次のことを徹底して行うよう指導します。

- ・正しい手洗いや咳エチケット
- ・マスクの着用
- ・換気
- ・給食用食品の衛生管理
- ・机や椅子、ドアなどの消毒

教職員がまず感染しないように、行動を自粛し、三密（密閉、密集、密接）を避けます。

#### 学校給食の工夫

一定の距離を保ちながら給食の準備や配膳を行います。対面での給食を当分の間中止します。

#### 学校図書館の活用

消毒などの感染症対策を徹底した上で本の貸し出しを行います。図書館を児童生徒の自習スペースとしても活用します。

#### 身体的距離の確保

必要に応じて学級を複数のグループに分け、特別教室なども活用します。児童生徒の席の間隔をできるかぎり空け、対面での教育活動を避けます。

#### 登下校の工夫

集団登下校ではマスクを着用し、間隔を開けて登校すること、校門や玄関口などで密集しないことを指導します。特に通学に不慣れな小学1年生の安全に十分注意します。

#### 正しい知識の指導

児童生徒が新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を身に付け、感染を避ける行動をとれるよう、発達段階に応じて指導します。

お問い合わせ

教育委員会事務局  
学校教育係

☎0943-32-0093

内線 262・263

# 新型コロナウイルスの3つの顔

～差別や不安から「負のスパイラル」に～

問 教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎ 0943-32-0093

**3つの「感染症」は  
つながっている**

日本赤十字社は、新型コロナウイルスには「3つの感染症の顔」があるといいます。

●第1の感染症は  
「病気そのもの」

新型コロナウイルスは、感染者との接触でうつることがわかっています。感染すると風邪に似た症状や、重症化して肺炎を引き起こすことがあります。

●第2の感染症は  
「不安と恐れ」

新型コロナウイルスは目に見えません。ワクチンや薬もまだ開発されていません。わからないことが多いため、私たちは強い不安や恐れを感じ、振り回されてしまうことがあります。それらは私たちの心の中でふくらみ、瞬く間に人から人へ伝染していきます。

●第3の感染症は  
「嫌悪・偏見・差別」

不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激します。ウイルス感染にかかわる人（医療、運送、生活必需品の販売などにかかわる人）を日常生活から遠ざけたり差別したりするなど、人と人との信頼関係や社会（地域、世代など）のつながりが壊されてしまいます。

これら「3つの感染症」は、負のスパイラルでつながりまわっています。例えば「あの人は咳をしている、コロナなんじゃないか」「熱があるけど怖いから黙ってよう」といった言動を招くことで感染症が広がっていきます。

未知のウイルスに対する不安  
が生まれる

本能的にウイルス感染に関わる人を遠ざけようとして差別  
が生まれる

差別を受けるのが怖くて発熱  
などの症状があっても医療機  
関の受診をためらい、結果と  
して病気が拡散する

未知のウイルスに対する不安  
が生まれる

## 負のスパイラルを 防ぐために

第1の感染症を防ぐため  
に、一人ひとりが「手洗い」

「咳エチケット」「人ごみを避ける」などを徹底しましょう。ウイルスにかからないための行動を、自分のためだけではなく、周りの人のためにもすることが大切です。

第2の感染症にふりまわされないためには、気づく力・聴く力・自分を支える力を高めることが重要です。不安や恐れは身を守るためには必要

な感情ですが、私たちから力を奪い、冷静な対応ができなくなることもあります。まずは、自分を見つめてみましょう。深呼吸をしたり、お茶を飲んで一息入れたりするのも一つの方法です。「ウイルスに関する悪い情報ばかりに目が向かないようにする」「今の状況だからこそできることに取り組んでみる」といったことも、不安から身を守ることにつながります。

第3の感染症を防ぐには、公的機関などが発信する「正確な情報」を得ることが重要です。インターネットやSNS、うわさ話には誤った情報が混ざっています。正確な情報に惑わされず、冷静な判断と行動を心がけましょう。

**体の距離は遠くに  
こころの距離は近くに**

病気が原因で起こる差別は、人々が連帯して病気に立ち向かう力を弱めてしまいます。病気そのものだけでなく、そこから生まれる不安や差別などに對して、一人ひとりの意識を変えて結束することが大切です。